

同志社大学

2015年度 個人研究費研究経過・成果報告書

2016年 3月 8日提出

所 属	職 名	氏 名
政策学部	教授	柿本昭人
研 究 題 目	《ヴァナキュラー》な場所の探求からゼロ年代以降のポップカルチャーへ	
研 究 成 果 の 概 要	<p>文化における二項図式、ハイカルチャー／サブカルチャー＝ポピュラーカルチャーは大人／子供の二項図式が重ね合わされてきた。とはいえ、当のハイカルチャーもまたパトロンに代わっての「複製技術」を前提とした「大量消費」がなければ、ハイカルチャーの提供者の基盤もまた覚束ないものであった。「先進国」の大量消費を支えてきた中産階級は、労働の自動化によってその給与水準が低下し、ハイカルチャーの大量消費もまた叶わなくなった。同時にその「子供」もまた、ポピュラーカルチャーの消費基盤として想定されてきた市場構造の想定から乖離した状況にある。「文化」を潜る二項図式のみならず、その言葉の内実で生じているグラデーションもまた細分化されてきた。ハイカルチャー／サブカルチャー＝ポピュラーカルチャーの解釈格子としての大人／子供の二項図式も、《ヴァナキュラー》な場所から離れてみれば、さほど自明でもなければ、安定もしていないことが見えてくる。以前取り扱っていた大人／子供のカップリングの論考があつてのことか、橋本伸也・沢山美果子編『保護と遺棄の子ども史』（昭和堂、2014年）の書評を社会経済学会より依頼され、公刊された（『社会経済史』（第81巻第4号、2016年2月））。図像の解釈を巡る無意識、《ヴァナキュラー》な場所がどこにあるのか、あらためて考える機会となった。</p>	